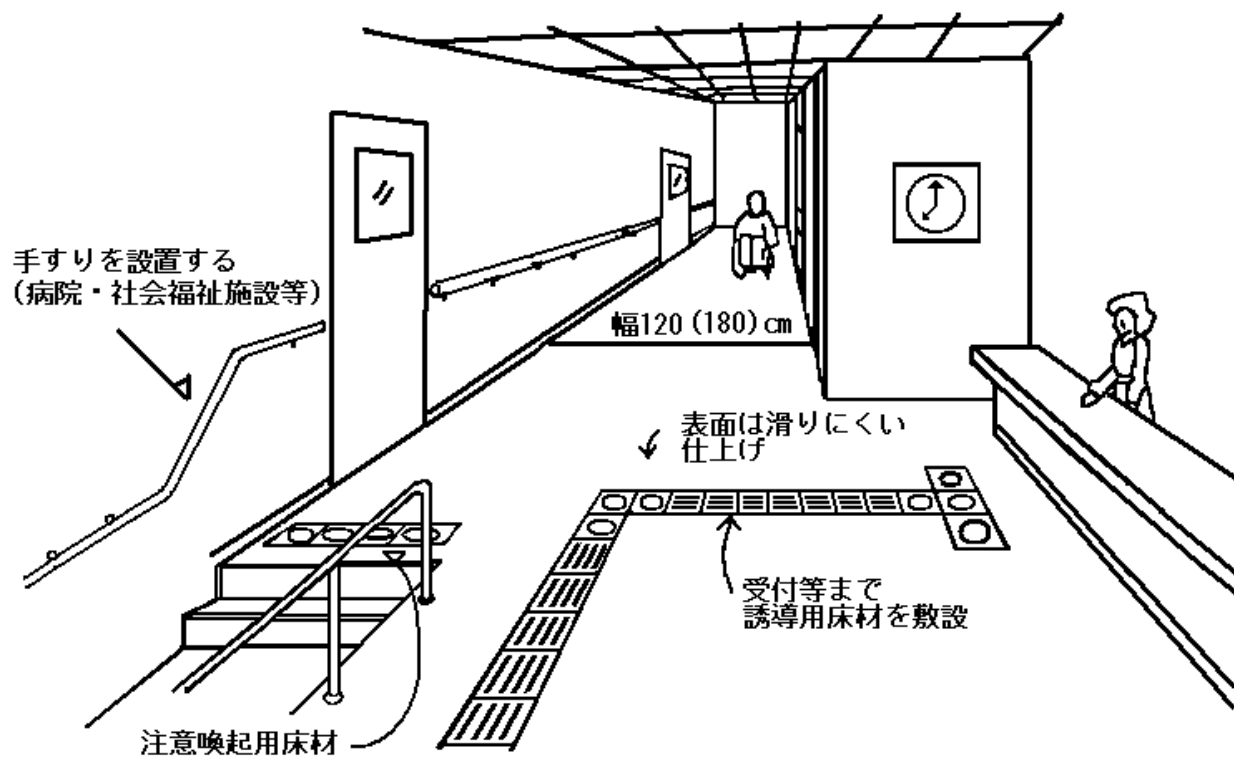


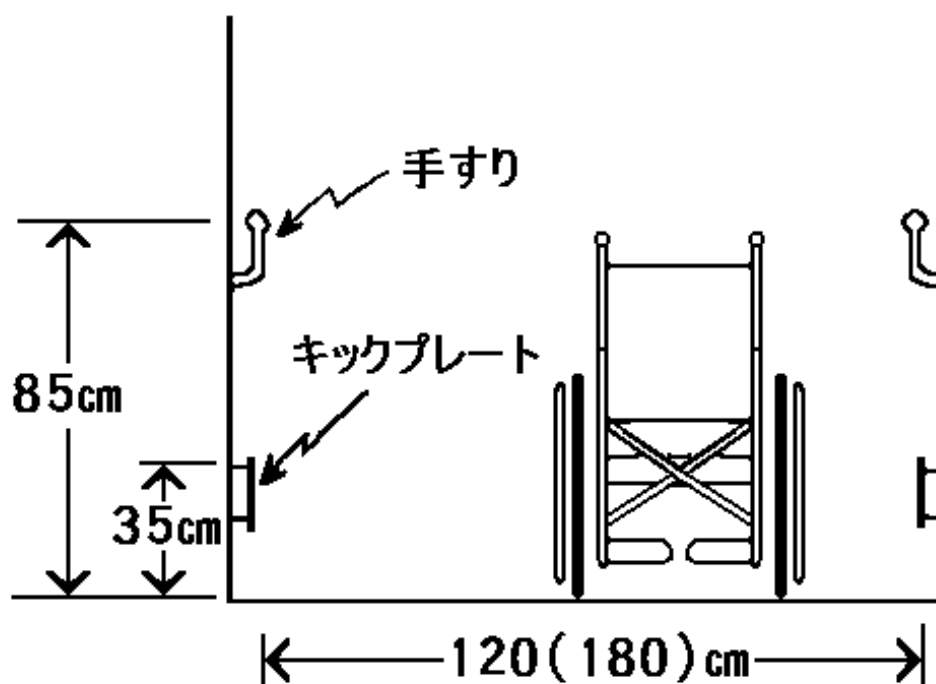
3 廊下等(ロビー、ホール、傾斜路、エレベーターの乗降ロビーを含む。)

項 目	整備基準(太字:ゴシック) ハートビル法誘導基準(●)	備 考
表面の仕上 段 経路の構造 (幅) (車いすの転回スペース) (傾斜路・踊場・昇降機) (出入口等の水平) 傾斜路(幅) (こう配)	<p>利用者の用に供する廊下等(共同住宅等にあつては、共用のものに限る。以下同じ。)は、次に定める構造であること。</p> <p>(一) 表面は、滑りにくい仕上げであること。</p> <p>(二) 段を設ける場合にあつては、次項に定める階段の構造に準じたものであること。</p> <p>(三) 外部出入口(1の項に定める構造であるものに限る。以下同じ。)のそれぞれから居室出入口(前項に定める構造であるものに限る。以下同じ。)に至る経路のうちそれぞれ1以上の経路にある廊下等(5の項(二)に定める構造のエレベーターを設ける場合にあつては、当該エレベーターの出入口に至る廊下等を含む。)にあつては、次に定める構造(教育施設または床面積の合計が2,000㎡未満(共同住宅等にあつては、5,000㎡未満)の建築物の直接地上に通じる出入口がない階の廊下等にあつては、(1)および(4)に定める構造)であること。</p> <p>(1) 幅は、内法が120cm以上であること。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>● 180cm以上(末端の付近及び区間50m以内ごとに車いすのすれ違いに支障がない部分を設ける場合にあつては、140cm以上)とすること。</p> </div> <p>(2) 末端付近は、車いすの転回に支障がない構造であること。</p> <p>(3) 区間が50mを超える場合にあつては、50m以内ごとに車いすが転回することができる部分が設けられていること。</p> <p>(4) 高低差がある場合にあつては、(四)に定める構造の傾斜路または車いす使用者用特殊構造昇降機(専ら車いす使用者の利用に供する昇降機をいう。以下同じ。)が設けられていること。</p> <p>(5) 外部出入口、居室出入口および5の項(二)に定める構造のエレベーターの出入口ならびに車いす使用者用特殊構造昇降機の昇降路に接する部分は、水平であること。</p> <p>(四) 廊下等に設けられる傾斜路は、次に掲げる構造であること。</p> <p>(1) 幅は、内法が120cm以上(段を併設する場合にあつては、90cm以上)であること。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>● 150cm以上(段を併設する場合にあつては、120cm以上)とすること。</p> </div> <p>(2) こう配は、12分の1(高低差が16cm以下である場合にあつては、8分の1)を超えていないこと。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>● 勾配は12分の1を超えないこと。</p> </div>	<p>・ 22ページ参照</p> <p>・ 24ページ参照</p> <p>・ 120cmは人(横向き)と車いすがすれ違いができ、松葉つえ利用者が円滑に通過できる寸法</p> <p>・ 90cmは傾斜路を車いすで通行できる寸法</p>

廊下等の全体例

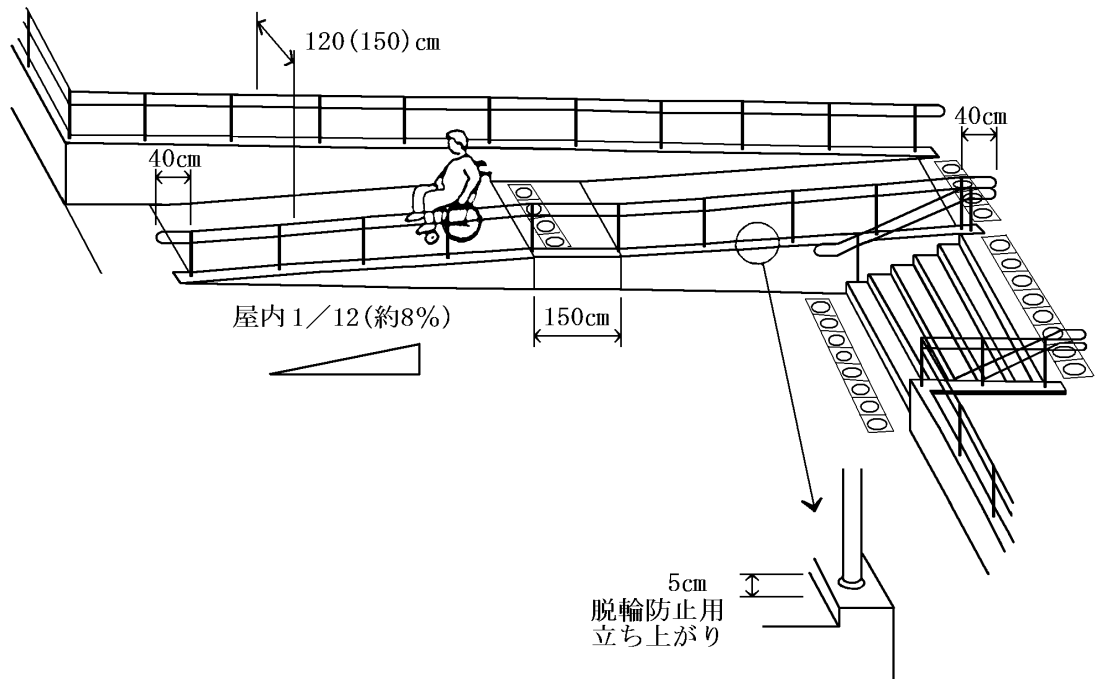


廊下(断面図)の例

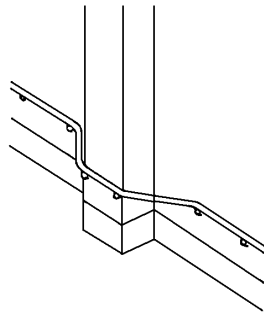


項 目	整備基準(太字:ゴシック) ハートビル法誘導基準(●)	備 考
(踊場)	<p>(3) 高低差が75cmを超える場合にあっては、75cm以内の高低差ごとに踏幅が150cm以上の水平な部分が設けられていること。</p> <p>● 敷地内通路の傾斜路の高低差が75cmを超える場合(勾配が20分の1を超える場合)にあっては、高さ75cm以内ごとに踏幅が150cm以上の踊場を設けること。</p>	
(手すり)	<p>(4) 傾斜している部分には、手すりが設けられていること。</p> <p>● 高さが16cmを超える傾斜路には、両側に手すりを設けること。</p>	
(傾斜路の識別) (視覚障がい者注意喚起用床材)	<p>(5) 傾斜している部分は、色等により傾斜していることが識別しやすいものであること。</p> <p>(6) 傾斜している部分の上端付近には、視覚障がい者の注意を喚起するための床材(色等により周囲の床材と識別しやすいものに限る。以下「注意喚起用床材」という。)が敷設されていること(教育施設または共同住宅等の直接地上に通じる出入口がない階に傾斜路を設ける場合を除く。)</p>	<p>・「注意喚起用床材」の色は、黄色を原則とする。</p>
視覚障がい者誘導用床材	<p>(五) 人または標識により視覚障がい者に建築物全体の利用に関する情報提供を行うことができる場所(以下「受付等」という。)を設ける場合にあっては、1の項に定める構造の直接地上に通じる出入口のうち1以上のものから受付等に至る廊下等には、視覚障がい者を誘導するための床材(色等により周囲の床材と識別しやすい床材に限る。以下「誘導用床材」という。)が敷設され、または音声により視覚障がい者を誘導する装置その他これに代わる装置が設けられていること(常時勤務する者により当該出入口において視覚障がい者を誘導できる場合その他視覚障がい者の誘導上支障がない場合を除く。)</p> <p>● 道等から案内設備までの主たる経路を「視覚障がい者利用円滑化経路」とする。</p>	<p>・「受付等」には、点字の案内板等も含まれる。</p> <p>・「誘導用床材」の色は、黄色を原則とする。</p> <p>・「常時勤務する者により…」とは、ホテルの入口に常時勤務している人により誘導が可能な場合等が該当する。</p>
手すり	<p>(六) 社会福祉施設(専ら障がい者または高齢者が利用するものに限る。6の項および12の項において同じ。)および医療施設にあっては、手すりが設けられていること。</p>	
突出部	<p>● 廊下等に突出部を設ける場合には、視覚障がい者の通行の安全上支障が生じないように必要な措置を講ずること。</p>	

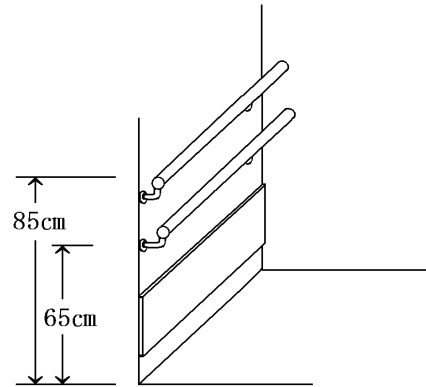
傾斜路の例



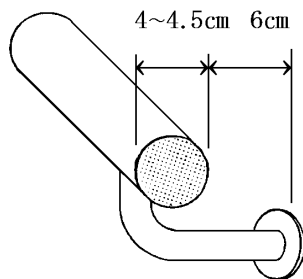
手すり（連続的な設置）の例



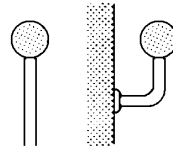
誘導用手すりの例



形状例



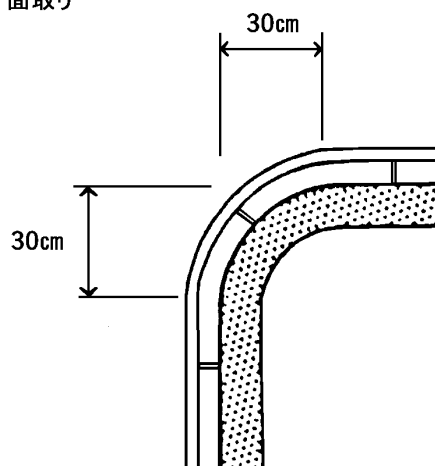
取付形状例



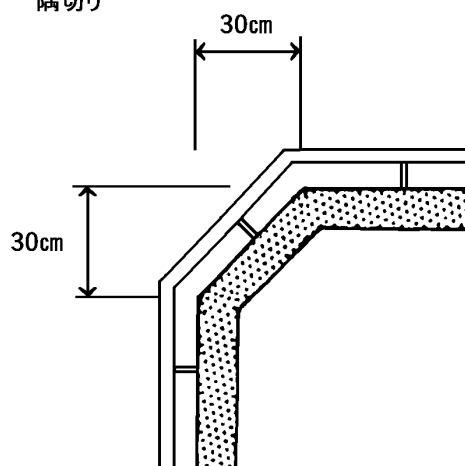
<p>休憩用設備</p>	<p>● 高齢者、身体障がい者の休憩の用に供する設備を適切な位置に設けること。</p>	
<p>(設計上の参考)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 曲がり角は30cm以上の隅切りをつけるか、できるだけ大きい曲面の面とりとする。 ・ 柱、消火栓などが突出しないようにする。突出した場合は、曲がり角に準じて隅切りか面取りをつける。 ・ 必要に応じて、床面35cm程度までキックプレートを設ける。 ・ 傾斜路の上端と下端に150cm以上の水平面を設ける。 ・ 傾斜路の両側には、車いすの脱輪などを防止するため、5 cm以上の立上りを設ける。 ・ エレベーター、電話などにも誘導用床材を延長する。 ・ 手すりは、可能な限り連続したものとする。 ・ 手すりの高さは、85cm程度とする。ただし、小児がよく利用する施設にあっては65cm程度のものを併設する。 ・ 手すりは、握りやすい形状、寸法とする。 ・ 手すりと壁とのすきまは6 cm程度とし、手すりの下側から支持する。 ・ 傾斜路、階段などに設置する手すりは、始端、終端を40cm程度水平に延長する。 ・ 手すりの端部は、下方または壁側に曲げるか、丸みを持たせるなど安全性に配慮し、誘導用の点字表示を設ける。 		

曲がりの例

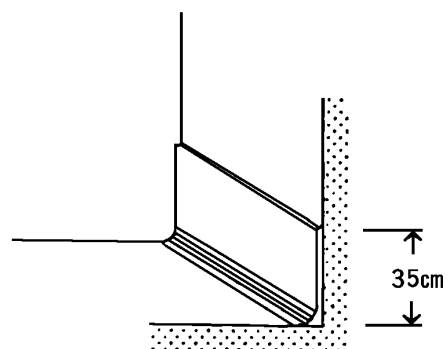
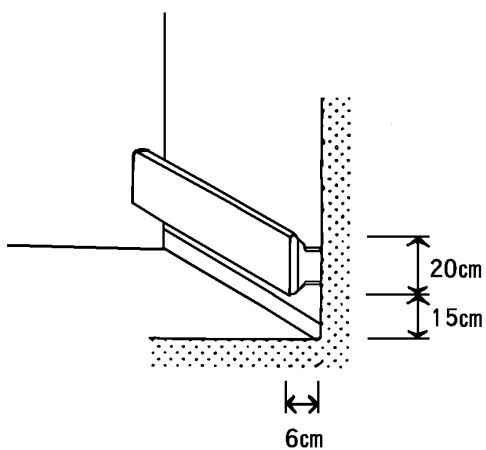
面取り



隅切り

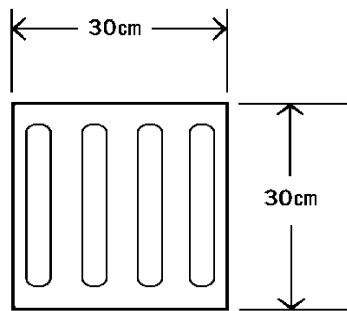


キックプレートの例

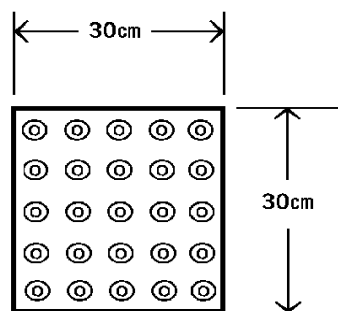


視覚障がい者用誘導用・注意喚起用床材の種類(JIS T 9251)
(30cm角)

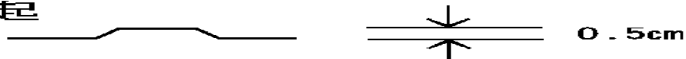
誘導用床材(線状)



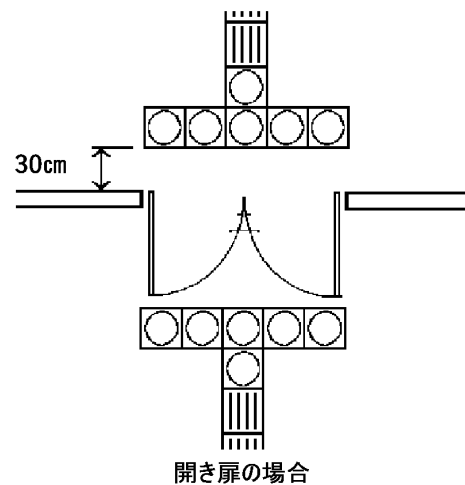
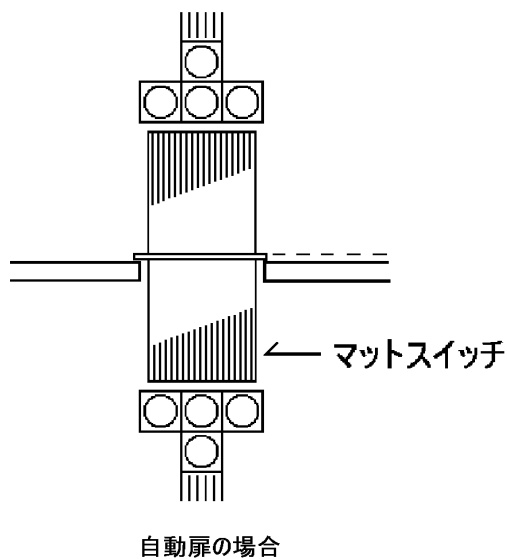
注意喚起用床材(点状)



突起



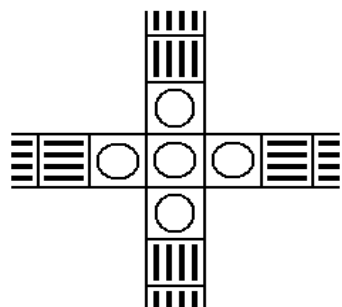
玄関の配置例(30cm角の場合)



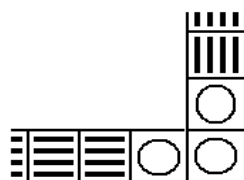
分岐点の配置例

(◻ は点状床材 ◻ は線状床材を示す)

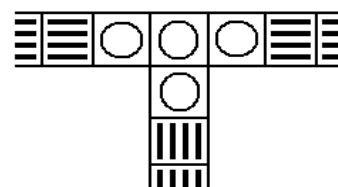
建物内に床材を使用する場合



十字路

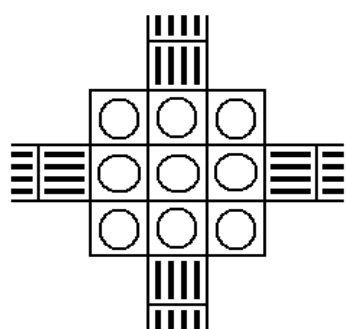


L字路

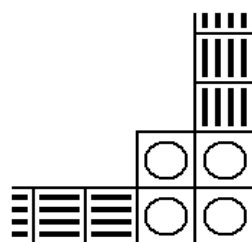


T字路

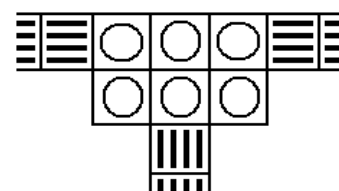
広い空間に床材を使用する場合



十字路

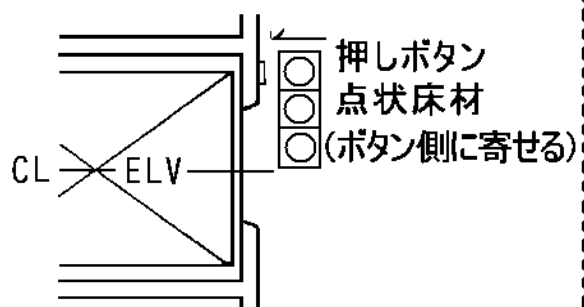


L字路

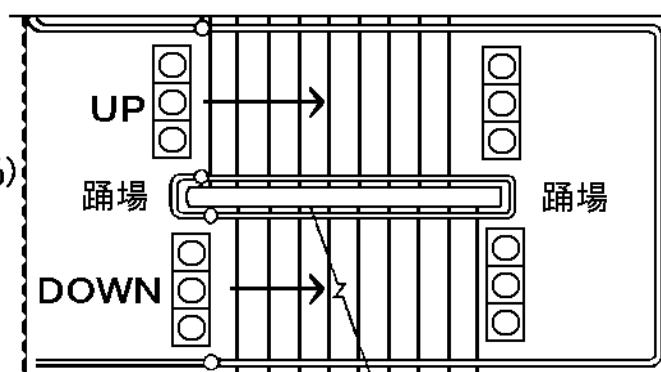


T字路

エレベーター出入口の配置例



階段の配置例



◻◻ 点状床材を示す